

海外赴任者におけるメンタルヘルスと支援に関する一考察  
－在中日本人中間管理職を対象とする質的研究－

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
馬 珊瑚

本研究では、現在中国の支社に赴任している日本人中間管理職の人々が職場生活におけるメンタルヘルスについてどのような経験をし、その実態を把握することである。具体的には、4名中間管理職を対象にインタビュー調査を実施し、修正版グラウンデッドセオリアプローチ(M-GTA)により分析を行ったところ、4つのカテゴリー、25の概念が生成された。それに基づいてストーリーラインを作成した結果、赴任前と赴任中の2段階と、それらの進展を促進または抑制する諸要因として、①職場におけるメンタル不調要因、②家族要因、③個人要因、④緩衝要因が見いだされた。結論として、①赴任前の研修が赴任後のパフォーマンスに大きな影響を与えること、②赴任者は、日本本社と海外支社を繋ぎ、関係を維持・向上させ、仕事を順調に遂行する「橋渡し」としての役割である、と新たに意識することが、「板挟み」に苦しんでいる葛藤をポジティブに捉えなおすことができること、③意思伝達において、はじめから相手が自分の意図を察することを期待せず、明確かつ直接的な説明や表現をすることが望ましいこと、④赴任者は仕事上の繋がりだと割り切ることができれば、ある一定の距離感を保ち、必要以上に職場の人間関係や問題が悪くなるという事態を避けることにより、精神的なメンタルヘルス不調を抑えることができることの4つが示唆された。